

北海道新型コロナウイルス感染症対策本部 第120回本部会議 記録

日 時／令和4年8月5日（金）
15：30～：16：00
場 所／本庁舎3階 テレビ会議室

【副本部長（小玉副知事）】

これより北海道新型コロナウイルス感染症対策本部の第120回本部会議を開催します。本日、本部長はオンラインで出席いただきます。まず、道内の感染状況等について新型コロナウイルス感染症対策監から説明願います。

【佐賀井新型コロナウイルス感染症対策監】

それでは資料1をご覧くださいと思います。まずスライドの1です。主な指標の状況ですが、昨日8月4日、新規感染者数は先週今週比で1を超える状況が継続しておりまして、人口10万対ですと札幌市1,013.2人、札幌市を除く地域で686.2人、全道で808.9人と、札幌市で1,000人を超えたことをはじめ、各地域で過去最多を更新しておりまして、療養者数も同様の傾向にございます。

また、病床使用率ですが、札幌市が42.7%と50%に迫りましたほか、札幌市を除く地域が27.0%、全道で32.1%と増加傾向が継続しております。

続いてスライドの2です。各圏域の状況ですが、新規感染者数の先週比が、全ての圏域で1を超えておりまして、人口10万対も多く圏域で過去最多を更新しており、療養者数も全ての圏域で過去最多の状況です。

病床使用率は、札幌市を含む道央圏や十勝圏などの大幅な増加をはじめ、全ての圏域で増加傾向が継続しております。

続いてスライド3、総評1です。全国の状況になります。新規感染者数が連続で過去最多を更新しており、病床使用率も大きく増加しています。国の専門家は、全国的に最も高い感染レベルを更新し続け感染拡大が継続していると指摘しております。本道は他県と比べて、いずれも低い状況にありますものの、全国と同様に感染は拡大しております。

医療提供体制です。療養者数は人口10万対981.5人で、その約9割を占めます自宅療養者ですが、7月26日に過去最多を更新し、その後も増加が継続しております。病床使用率も急速な増加傾向が続き、道央圏や十勝圏などでは大きく増加している中、重症病床使用率は低い水準で推移をしております。

感染状況です。新規感染者数は、7月26日の過去最多の更新以降、10日連続で更新しております。年代別では、引き続き、30代以下の割合が約6割の中、10代の増加幅は低くなっております。感染者がより増加しやすいとされるBA.5系統ですが、国の専門家によりまして、流行の主流がBA.2系統からBA.5系統への置き換わりが推定されると指摘されております。道内も145件検出されておりまして、現在、道立保健所分の検出率で申し上げますと、66.7%の状況にあります。

続いてスライド4、総評2です。今後の対策です。全道の新規感染者数が過去最多の中、国の専門家は、医療体制への影響も含め、最大限の警戒感で注視する必要があると指摘しております。社会経済活動の維持のため、これまで整備してきた保健・医療提供体制を十分に機能をさせつつ、重症化リスクの高い高齢者や基礎疾患のある方を感染から守ること

に重点を置きまして、取組を進めてまいります。

道内の保健・医療提供体制ですが、直ちにひっ迫している状況にはないものの、感染拡大の中、発熱外来の負担が増加しているほか、札幌市を含む道央圏や十勝圏では、病床使用率が大きく増加しておりまして、病床フェーズのさらなる引き上げの検討を進めてまいります。

保健所がリスクの高い高齢者等に確実に対応できますよう、自宅療養者への健康観察業務の民間委託を大幅に拡大しまして、8月8日からは全26保健所で実施します。なお、その詳細につきましては、後ほどスライドの7と8をご覧くださいと思います。

高齢者施設等での感染拡大を防ぐため、地域の感染拡大状況に応じまして、職員への頻回検査を順次開始できるよう準備を進めてまいります。

自宅療養セットの迅速な配送に向け、事業者との調整を進めますほか、申込方法の見直しなど、さらなる効率化も検討してまいります。

次に、スライド5、総評3です。事業所などが検査証明や陰性証明の提出を求める状況がある中、医療機関などではその求めに対応しておりますが、国の通知を踏まえまして、今後は発行を求めないよう、また、保健所発行の療養証明も国通知の真に必要な限り提出を求めないとされたことから、こうした取扱いにつきまして、事業者等に協力を依頼しているところでございます。

8月4日、国の対策本部におきまして、オミクロン株の特徴に合わせた医療機関や保健所の更なる負担軽減への対応が決定したところです。道では、この詳細を確認しまして、関係機関等と情報共有の上、更なる負担軽減への対応に向けまして、検討を進めてまいります。

道民の皆様には「3つの行動」の実践を引き続き呼びかけますとともに、夏休みシーズンに注意が必要な場面などでの実践について、わかりやすく呼びかけてまいります。特に、医療負担に直結します重症化リスクの高い高齢者等やそうした方と会う方の双方に向けまして、基本的な感染防止行動の徹底を働きかけてまいります。また、高齢者等に会う際には、検査による陰性確認なども呼びかけてまいります。

誰もが感染する可能性が高まる中、万が一に備え、解熱剤や3日間程度の生活物資の備蓄など、家族で話し合い、あらかじめ用意するよう呼びかけてまいります。

次にスライド6、総評4です。道内でも新規感染者数が増加している中、救急搬送困難事例が増加しているため、リスクの高い高齢者等をはじめ、子供の急病など様々な方の医療へのアクセスに支障が出ないよう、市町村とも連携し、必要な呼びかけを進めてまいります。

全数把握の可否など、感染症法上の取扱いに際し、道では国への緊急要請とともに知事会を通じ緊急提言したところです。国は7月31日、今後の見直しの方向性を示したほか、8月2日には、専門家有志の提言がなされましたことから、引き続き、こうした国の動向を注視してまいります。

国はBA.5系統を中心とする感染急拡大に対応し、「BA.5対策強化宣言」を行う都道府県への支援を7月29日に決定し、8月1日、宣言の留意事項が発出されました。道では宣言した県の取組内容などについて速やかに情報収集してまいります。

リスクの高い高齢者などの4回目接種、若年層の3回目接種を積極的に検討いただくよう、道の接種センターの活用や、多様な媒体を活用した広報展開の呼びかけを進めます。

ノババックワクチンですが、8月28日までの間、道のセンターの接種回数を1日240回

に拡大し実施しておりまして、道内では現在7市町、新たに帯広市が8月20日から接種開始することとなり、これらを含めまして今後4市町で開始予定でございます。広域的な接種促進なども含め、国からのワクチン配分動向も見据えながら、より多くの方の接種に向けまして、市町村との調整を進めてまいります。

続いてスライド9以降について、何点か主要な動向など補足説明いたします。

スライドを少し飛ばしていただきまして、スライド27をご覧くださいと思います。棒グラフの右側のとおりですが、新規感染者数は急激な増加の波が見てとれる中、特に30代から50代までの増加幅が大きい状況です。また、左側の円グラフのとおり、感染者割合は引き続き30代以下の割合が最も高く、足下では40代から50代の割合が増加する一方で、10代の増加幅は低く、30代以下の割合は60%を下回る状況にあります。

なお、60代以上も実数の増加が見られますものの、その他の年代の増加幅が大きいためその割合は微増の状況となっております。

スライド29をご覧くださいと思います。左側の表になります。3回目接種は8月3日現在で、VRSベースで約342万1,000人。接種率でいくと65.4%。このうち65歳以上は約150万7,000人で接種率は90.3%。また右側の表ですが、4回目接種はこれまで約56万人が接種し、60歳以上は約54万人、接種率は26.9%となっております。

下段の表になります。小児の接種率ですが、高くはないものの、1回目が20.9%、2回目が19.2%と全国を上回る状況が継続しております。

スライド30をご覧くださいと思います。3回目接種の年代別状況ですが65歳以上が高い水準の中、10代は35.1%にとどまっている状況です。また、このうち20代、30代は全国の接種率を上回り、50%を超えておりますが、他の年代より低いことや、感染の急拡大が継続しておりますので、これらの年代の更なる接種加速化に向け、市町村の取組を積極的に支援してまいります。

続いてスライド32をご覧ください。丸の一つ目です。人の移動や世代間交流が活発となる夏休みなどでの接種率向上の取組としまして、丸の二つ目になりますが、特に若年層をターゲットに知事のメッセージ動画の街頭大型ビジョンやSNSでの配信、学生向けポータルサイトのリニューアル、Web広告の実施に加えまして、丸の三つ目です、感染急拡大を踏まえた高齢者のもとより、これまで3回目接種を受けていない方々への情報提供、接種希望者への対応など、道のセンターも活用しながら市町村と連携して取組を進めてまいります。

続いてスライド35をご覧くださいと思います。丸の一つ目、道のセンターでのノバックスワクチンですが、道民の皆様から非常に高い関心をいただいております中、8月21日（日）の接種分は既に予約枠を満たしている状況にあります。次の8月28日（日）の接種分ですが、来週の9日（火）から予約を受付いたします。

丸の三つ目です。道の接種センターで実施のモデルナワクチンの3回目と4回目ですが、全日程に未だ空きがございますので、引き続き広く接種を呼びかけてまいります。

その他のスライドですが、本日の説明に関するデータあるいは情報でございますので、後ほどご覧いただければと思います。資料1の説明は以上です。

続きまして資料2をご覧くださいと思います。先ほどの資料1「道内の感染状況等」などについて、専門家、有識者の皆様のご意見を伺ってございます。また、市町村や関係団体の方々にも事前にお知らせしているところです。有識者、専門家の皆様からは、概ね妥当である旨のご意見をいただいております。その内容をご紹介しますと、1の1

ですが、軽症者の体調不良などによります短期入院ですが、これらは有効と考えるので療養期間中の退院時に使用する車両の充実が必要である。

また、市町村や関係団体の方からは、2-1ですが、お盆期間を迎え、人流増加が見込まれるので、交通拠点の主要な空港や駅での無料検査体制の充実をお願いしたい。こうしたご意見が寄せられております。

これらの面につきましては今後の対策の参考としてまいります。説明は以上でございます。

【副本部長（小玉副知事）】

次に札幌市の感染状況について、オブザーバー出席いただいております札幌市保健所の山口感染症担当部長から説明をお願いいたします。

【山口札幌市感染症担当部長】

はい札幌市の山口でございます。資料3に基づきまして札幌市の感染状況についてご説明をいたします。それでは最初のスライドをご覧ください。新規感染者の1週間の合計についてであります。昨日8月4日（木）の時点では1万9,875人。人口10万人当たりになりますと、1,013.2人と、1,000人を超え過去最多となったところでございます。

感染が急拡大した第6波のピークであります2月7日では1万3,205人でしたので、それと比べますと、新規感染者数は約1.5倍となっております。これまでにない水準に達しており、更なる感染拡大に引き続き警戒が必要だというふうにご考えてございます。

それでは、次のスライドをご覧ください。札幌市内の入院患者数の推移でございます。黄色の棒グラフは入院患者数でございますが、昨日の時点で310人と先週の同じ曜日と比べますと、先週は260人でしたので、1週間で約50人増加しております。第6波のピークでありました288人を上回る状況になってございます。一方、重症患者数は赤の折れ線グラフでございますが、0人と低い水準は変わらないところであります。

医療機関内でも陽性患者が多数発生しております。入院調整も厳しくなりつつあることから、院内での陽性患者が発生した場合には、できるだけ自院での対応をお願いしているところでございます。

また、高齢者施設でのクラスターが増加している影響もありまして、入院患者数の75%が60歳以上となっております。介護を要する高齢者の方も増えていることから、医療への負担が高まっている状況でございます。

それでは最後のスライドをご覧ください。このスライドは検査件数のスライドでございます。直近の1週間では2万8,537件の検査をしております。これを1日平均にいたしますと約4,000件以上の検査を実施していることとなります。

陽性率につきましては、昨日の時点で69.6%ということで、高い数値が続いております。

病床使用率の上昇が続いており、医療への負担をできるだけ抑え、感染拡大を防止するためにも、場面に応じた基本的な感染対策の徹底と、ワクチン接種の促進が重要と考えてございます。以上です。

【副本部長（小玉副知事）】

次に、各部、振興局から順次発言をお願いいたします。まず留萌振興局長をお願いします。

【工藤留萌振興局長】

それでは、資料4に基づきまして、留萌管内におけます感染状況、並びに感染防止対策の取組についてご報告をいたします。

初めに、管内の感染状況についてであります。留萌管内では資料上段の棒グラフのとおり、これまで1日の新規感染者は最多でも20名と、住民の皆様のご理解とご協力のもと比較的落ち着いた状況が続いておりましたが、7月の3連休以降、感染者数が大幅に増加し、先月26日に過去最多を更新する39名が感染するなど、現在も高止まりの状況でございます。

また、地域のセンター病院におきまして集団感染事例が発生し、診療体制が縮小されるとともに、高齢者福祉施設でも2件の集団感染事例が発生するなど、管内の感染状況は大変厳しい状況が続いております。

こうしたこともありまして、7月の管内の年齢別感染者については、右上の円グラフのとおり、60歳以上の高齢者の割合が22%と、全道の集計値を上回りますとともに、管内の6月実績と比較しても大きく増加している状況にあります。このため、資料下段の2番、感染拡大防止等への取組状況のとおり、振興局では休日を含めまして日々感染状況について、首長や副市町村長など市町村の皆様と直接連絡を取り合い、情報共有など必要な感染対策についての連携を強めますとともに、夏休みやお盆などを迎えるにあたりまして、市町村長との共同メッセージを発出し、特に徹底が求められる行動について注意喚起、更には医療機関での集団感染事例の発生を受けて地域の医療体制確保に向けた緊急メッセージの発出など、地域の皆様への基本的な感染防止行動のより一層の徹底をお願いしているところです。

また、先ほど報告しましたとおり、管内では高齢者の方の感染割合が高い傾向にあることも踏まえまして、赤枠囲みにありますとおり、集団感染事例が発生した施設に対しての現地支援対策本部による助言・指導はもとより、市町村とも連携をしながら4回目ワクチンの接種促進や、重症化リスクの高い方や、基礎疾患のある方に加えまして、そうした方と接する機会のある方々に対し、基本的な感染防止対策や検温などの体調管理の徹底を呼びかけますとともに、高齢者福祉施設を訪問し、改めて効果的な換気の実施や職員の方々の頻回検査の実施などについて直接お願いをしているところであります。

こうした取組を進める中、振興局といたしましては、万が一にも保健所機能が滞ることがないように、7月19日から保健所に任期付職員を配置しますとともに、保健所内の事務サポートや、PCR検査の受検者の誘導等について、庁内各課からの応援体制を組むなど、保健所の体制強化を図っているところでありまして、今後とも市町村や関係団体の皆様との連携の下、厳しい状況が続く管内の感染防止対策を進めてまいります。

報告は以上でございます。

【副本部長（小玉副知事）】

この他各部、振興局からご発言ございませんか。本部長お願いいたします。

【本部長（鈴木知事）】

知事の鈴木です。皆さん聞こえますでしょうか。各本部員の皆さん、そして地方本部員の皆さん、オブザーバーで参加をいただいております皆さん、そして道民の皆様、本日は療養中ということでありましてオンラインで出席をさせていただいております。

本日で療養について7日目となっているわけですが、この間オンラインの打ち合

わせなども活用させていただきながら、コロナの対策・対応をはじめとして、日々の道政の運営を進めてきたところです。来週には復帰したいと考えてますので皆さんよろしくお願い申し上げます。

道内では、これまでに経験したことのない感染拡大が続いています。本日の新規感染者数についても、過去最多を更新して7,210人となっています。そして全道の病床使用率についても32.1%となりまして、30%を超えるのは5ヶ月ぶりという状況になっています。病床使用率は増加しているという状況です。

また、全国の感染状況を見ますと、感染の拡大が全国で続いています。国は新たに「BA.5対策強化宣言」の枠組みを設けまして、昨日までに12の府県でこの宣言を実施している状況にあります。

こうした状況の中で、まもなく、お盆の時期を迎えます。人の移動が活発化し、感染のリスクが高まる時期になります。これまで道では、道民の皆様、そして医療機関の皆様のご協力をいただきながら、病床の確保、そして感染拡大の防止に努めてきたところであります。

現在の本道の病床使用率であります、全国的に最も低い水準ということにとどまっております。一方で、新規感染者数が頻繁に過去最多、本日もそうですが更新して、今後さらなる入院患者数の増加も見込まれるという状況の中、やはり先を見越して、この夏の感染拡大防止に向けて、集中的な取組を行っていく必要があると考えています。このため道としてもこの時期に必要なとなります感染拡大防止に向けた効果的な感染防止行動の徹底、さらには、円滑な検査、病床の確保、ワクチン接種の促進といった保健・医療提供体制の強化などを含めた総合的な対策について、速やかに検討を進めるように指示をいたします。

特に、今後の入院患者数の増加を見越し、現在、病床使用率が高い水準になっております札幌市を含む道央圏、そして十勝圏については、即応病床のフェーズの引き上げに向けて検討を加速するようお願いいたします。

最後になりますけれども、最近の国の動向についてであります。国は、全数把握の要否を含む感染症法上の取扱いについて、感染の収束後に見直しを行うことを表明し、国の専門家からもこの検討を促す提言があったところであります。

さらに昨日、政府対策本部会議が行われ保健所等のさらなる負担軽減への対応が決定されたところであります。道としてもこうした国の様々な新たな動きについてしっかりと情報収集を行い、関係機関とも情報共有をしながら、速やかに対応していただくように指示をいたします。

私からは以上です。

【副本部長（小玉副知事）】

本部長から指示のあったことにつきまして、各本部員は必要な対応をお願いします。以上をもって新型コロナウイルス感染症対策本部の第120回本部会議を終了いたします。

(了)